

18

乾いた田んぼに直接種モミをまいて経費節減

要約

米価低迷、担い手減少や高齢化に対応する大規模水田営農技術として、乾いた田んぼ（乾田）に直接種まき（直播）する水稻栽培技術を開発しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

農業人口の減少と高齢化が進むため、将来の大規模水田営農を見据えた新たな水稻栽培技術を開発するとともに、大規模水田営農モデルを策定して農家経営安定化の指針を示します。



図1 水稻V溝乾田直播栽培

注) V字状の溝の中に種モミと肥料をまくと、苗が生え、秋にはお米が稔る。

2. 内容

- 水稻V溝乾田直播栽培では、慣行栽培と同等の収量を確保しつつ、労働時間を慣行の1/3以下、生産コストを慣行の70%程度に低減できます。
- 水稻V溝乾田直播栽培を核とした、家族労働2人による、20～30ha規模の大規模水田営農モデルを策定しました。
- 「水稻V溝乾田直播栽培マニュアル」を作成し、指導機関に配付しました。

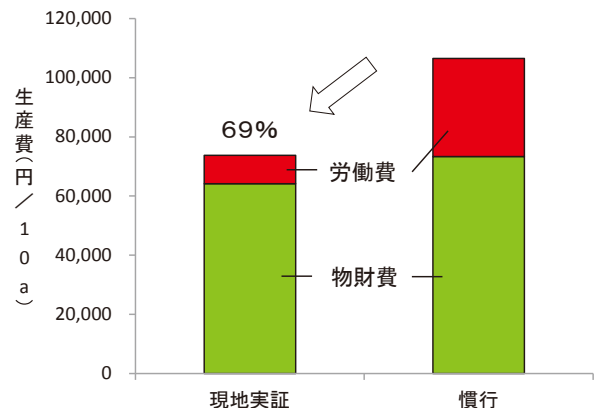


図2 開発技術の現地実証の生産コスト

注) 慣行は平成23年産 米生産費(青森県)

3. 活用等

米価の低迷、担い手の減少や高齢化が進行しても、本県の稲作農家が営農を継続でき、今後も県産米を安定的に供給するために有効な技術です。

関連情報

- この技術を活用することにより、春作業の労働ピークの緩和、育苗・田植えの労力軽減と育苗関連経費の削減が可能となります。
- この成果は、「まっしぐら」、「つがるロマン」のデータをもとに作成しています。
- 栽培マニュアルは、県農業普及振興室、播種機メーカー、農林総合研究所で入手できます。

農林総合研究所 作物部

Tel. 0172-52-4396

E-mail nou_souken@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

